

命をあずかる責にん

五年 米山夢乃

わたしは動物が大好きで、モルモットとくらしています。そして、動物福祉という言葉にきょうみを持ちました。動物福祉とは、「動物が精神的・肉体的に充分健康で、幸福であり、環境とも調和していること」です。わたしは、この一文から、このような言葉が作られるほどに、不幸になっている動物がいるのではないかと考えました。

そこで、しゅほうかいや、さつ処分のことを知り、調べました。かい主が、動物をはんしょくさせすぎでしまったり、適切な世話ができなくなり、動物の健康状態などが悪化してしまうことがしゅほうかいだということが分かりました。その結果、年間約一万頭の、犬猫がさつ処分されてしまっています。わたしは、近所の犬や、家でいっしょにくらしているモルモットの「らる」が不幸になってしまったことを考えると、悲しみや、いかりが、こみ上げてきました。わたしは、らるを、最後まで責にんを持って、どれだけ世話が、大変でも、幸せに育てていきたいと思いました。

また、動物を不幸にしてしまう人もいますが、不幸になってしまった動物をすくってくくれる人もいます。動物保護施設の人たち、動物愛護団体の人たち、じゅう医さんなどの人たちです。このような人たちのおかげで、たくさん動物が幸せになっていることが分かりました。

わたしのしょうらいの夢は、じゅう医さんになって、たくさん動物を幸せにすることです。命をすくうだけではなく、動物の命の大切さや、ペットを最後まで責にんをもってかうことの大切さを伝えていき、少しでも、幸せな命をふやしていきたいと思いました。